

平成 27 年度「みえの現場 “やっぱし” すこいやんかトーク」(紀北町) の概要

平成 27 年 10 月 15 日(木)に、紀北町海山区の町民センターで、「みえの現場 “やっぱし” すこいやんかトーク」を開催しました。

当日は、地元の生産者でメンバーの多くが Uターン者又は Iターン者である『三重紀北町 海・山こだわり市 実行委員会』の皆さん」7名に、活動のやりがいや Uターンしたきっかけなどについてご意見などをお伺いしました。



【参加者からの発言】

代表から、団体の活動について紹介をしていただいた後、メンバーの皆さんから、出身地や普段の仕事などを含め、自己紹介をしていただきました。

(活動紹介)

- こだわりを持って生産したものを、こだわったスタイルで売る。そこから「海・山こだわり市」を結成した。地域の人達に知ってもらうことが第一で、子どもをターゲットにしている。第一次産業の生き様としての格好よさを子どもたちにみせて、そんな格好いい生産者が揃っている。
- 地域には本当に素敵な人が沢山いる。実行委員長をして一番得をしたなと思うのは、その人達と繋がる機会が多くあり、一番楽しませてもらっている。
- Uターンし、地元紀北町をもっとPRしたいという思いから「海・山こだわり市」や「釣りコン」(海上釣堀を使った婚活パーティー)を開催している。これまで市

- も 8 回開催し、回を増すごとに多くの方が紀北町を訪れるようになった。代表とは幼なじみで、一緒に何か面白いことやろうということが活動のきっかけである。
- 菌床シイタケの生産と加工をしている。「海・山こだわり市」のメンバーとして参加して、色々な人の話やアイデアをもらえることがこの集まりの良さ。
 - 銚子川のほとりで農業をやっている。元々は化学メーカーで研究をしていた。こだわりの生産物を自信を持って売るというコンセプトに凄く共感して参加した。人前で物を売り買いすることは得意なほうではなかったが、農業や漁業などそれぞれの分野に携わる者と交流することで、凄く勉強にもなるし励みになる。将来は、この地域で農業が面白いと言われるようにしたい。
 - 27 歳のときに名古屋から U ターンし、初めは建設業に従事していたが脱サラし、30 歳からあおさのりの養殖を初め、それまでの生き方や考え方が 180 度変化した。今は、あおさのりをしながら楽しんでいる。こだわり市に参加し、作るだけでなく人前に立つことで色々なつながりが出てきた。
 - メンバーの中で唯一の移住者で、トマトの生産と加工をしている。6 年前に紀北町に移住し、農業も全く知識ゼロのなか、ハウスを建てて、トマトジュースを生産している。楽しくこだわり市に参加し、みえ次世代ファーマーズ miel (ミエル) にも参加している。
 - 今年、新規就農してイチゴを栽培している。今年試験的に制作したアイスクリームはすごく好評で、来年もアイスクリームを作りたいと思っている。

Q U・I ターンのお話しが沢山出てきましたが、県では、移住に力を入れていこうとしています。U ターンしようと思ったきっかけや移住された方は、紀北町を選んだ理由についてお聞かせください。

- 家業を大きくするために帰って来いということがきっかけで、初めは家業に没頭していてこのままで本当に良いのかと思っていた。海上釣堀を始め、この地域にお客様が来てくれることがわかった時にこのまま帰らすのはもったい無いと思った。その頃、横の繋がりが欲しいと思っていたところ、紀北町のリーダー研修に参加することができ、いろいろな人と繋がることが出来た。
- 自然豊かな町が好き、隣近所が顔の見える関係のある、そういう所で子育てしたいと思った。紀北町へ戻ってきたのは、自分が“紀北町がいい”と思ったからで、今の子どもたちに町の良さを伝えていく仕組みを作っていかなければならないと思う。
- しいたけ栽培をするために戻って来たわけではなく、子育てを田舎でしたいという思いから戻ってきたが、実際は、思っていたよりも農業が結構忙しくて時間が取れない。
- 両親が年老いてきたので、県内でも色々土地を探し回ったが、出身の紀北町に戻ってきた。一番愛着の持てる町で、最終的には、親と農業のできる土地が見つかったのが紀北町ということ。父親が漁師であり元々一次産業にすごく興味があった。そういうところから大学も農学部なので農業を志した。現場に直接に関わり

たいという思いもあった。

- 建設業は全国どこにでもあり、地元にも戻りやすいという考えはあった。このままでいいのかと考えていた時に、親戚から声が掛り、気持ちとタイミングが合ってUターンすることになった。Uターン後も建設業をしていたが、目の前にサラリーマンでいるよりも稼げる「あおさのり養殖」という職業があり、自分はそこに飛び込まずにいらなかった。
- 愛知県出身で、語学留学という形でボストンに行ってるときに両親が紀北町に移住した。帰国後、紀北町に行かないという選択肢もあったが、ちょうどリーマン・ショック後で、大企業も農業参入している中、僕も騙されて農業やってみようかなと。両親がなぜ紀北町を選んだかは、この土地のタクシー運転手さんは愛想が良いとか、町の人が優しいとか、その何となくが、僕は大事であると思う。ただ僕も目立ちたがり屋というか、人がしない事をするのが好きなタイプ。こういったところに移住する、更に農業をやるというと凄く目立てる。そういったチャンスは田舎には必ずあると思う。都会には無いメリットかな。
- 私は生まれも育ちも紀北町で、私達には当たり前のこと、例えば銚子川が綺麗な事、和具の浜の星空は凄いこと等、他所に出たことがある人の方が紀北町の良さを凄く理解していると感じる。また、他所に出たことがある人は、他所から来た人とも話ができ、すぐに仲良くなれる。凄いと思う。Uターンで来た人も地元の人と違う感性を持ち、大変刺激を受けるし勉強になる。

【知事の発言】

- 確かに外に行った経験ある人は外の人も繋いで資源というか、リソースをどんどん大きくしていくというのはあるでしょうね。それ重要なポイントですね。

【町長の発言】

- 今若い人の言葉を聞いて、帰ってきたくなる町、思い出す町、そういった町を外からまた見て、何となくいいよなって言うような町を作らなきゃいけないと実感しました。ですから我々としては子育てがしやすい町、そういう環境を作っていかなければいけないな、というのが今の感想です。

Q こだわり市の活動や一次産業に従事してみて良かったこと、嬉しかったこと、楽しかったことについてお聞かせください。

- 生産者は視野が狭いことに気づかずにやっていることが多い。生産者の仲間がいることで、違うアイデアをポンと言ってくれる。また、年に4回こだわり市をやっていると、いつも初心に戻ることが出来る。そういうところが、こだわり市の良いところ。
- こだわり市の仲間がいることで、認め合った仲で競い合うことが良い刺激になる。
- 農業は基本的には喜ばれる商売。親戚や友達のいないこの土地で、こだわり市のメンバーから声をかけていただいたことがありがたかった。

- 消費者の反応を直接見る事が出来る。台風でしんどかった時に、話のできる仲間に救われた。こだわり市のおかげで、地元のケーキ屋さんと出会え、農産物の加工ができることになった。また、仲間が自分の力を引き出してくれる。
- このメンバーがいるおかげで、アイデアを出し合いながら、トライ＆エラーができることが1番の魅力。
- 最初は代表がリーダーだったが、今ではメンバーの一人一人が町おこしのリーダー的存在になってきている。若手が次々に繋がっていき、この活動に繋がっていったことが一番面白い。
- 商品開発がキーワード。一次製品の生産だけでは限界がある。地元の加工業者と一緒に作品を作り上げることで、こだわることができるし、地域の利益にも繋がり、一緒になって考える事が出来る。このスタイルは、こだわり市ならではのもの。

【知事の発言】

- 非常に勢いと、この地域への愛着あふれる思いを感じさせてもらえるトークでありました。
- 皆さんが取り組んでいることは、今日明日に結果が出るとうれしいけれども、これからの地域を担っていく世代だからこそ、もっと先のことを見据えて頑張ってもらえると思いました。
- この仲間でありライバルでもある、こういう環境を上手く活かして、地域のために前に前に進んでもらえたら良いと思います。私達も応援していきたいと思います。

